

竹原市 認定こども園・幼稚園・保育所の新制度移行に関する意向まとめ

▼調査対象

| 形態（施設名） | 調査件数 |
|----------|------|
| 認定こども園 | 1 |
| ・中央こども園 | |
| 幼稚園 | 1 |
| ・聖愛幼稚園 | |
| 保育所 | 4 |
| ・賀茂川保育所 | |
| ・大乘保育園 | |
| ・忠海東部保育園 | |
| ・明星保育園 | |

▼認定こども園における新制度移行の予定。

- ① 子ども・子育て新制度への移行（施設型給付の対象施設として、市町村から子ども・子育て支援法に基づく確認を受けること。以下同じ。）について、現時点での貴施設における今後の対応方針をお答えください。

【中央こども園】

1. 現在の認定こども園の類型で新制度に移行する。

▼幼稚園・保育所における新制度移行の予定。

- ① 平成27年度（新制度施行1年目）から認定こども園（幼保連携型又は保育所型）への移行を予定していますか。

【聖愛幼稚園】

2. 幼稚園のままの方向で検討中である。

【賀茂川保育所】

4. 認定こども園へ移行する方向で検討中である。

【大乘保育園】

3. 認定こども園へ移行する予定である。

【忠海東部保育園】

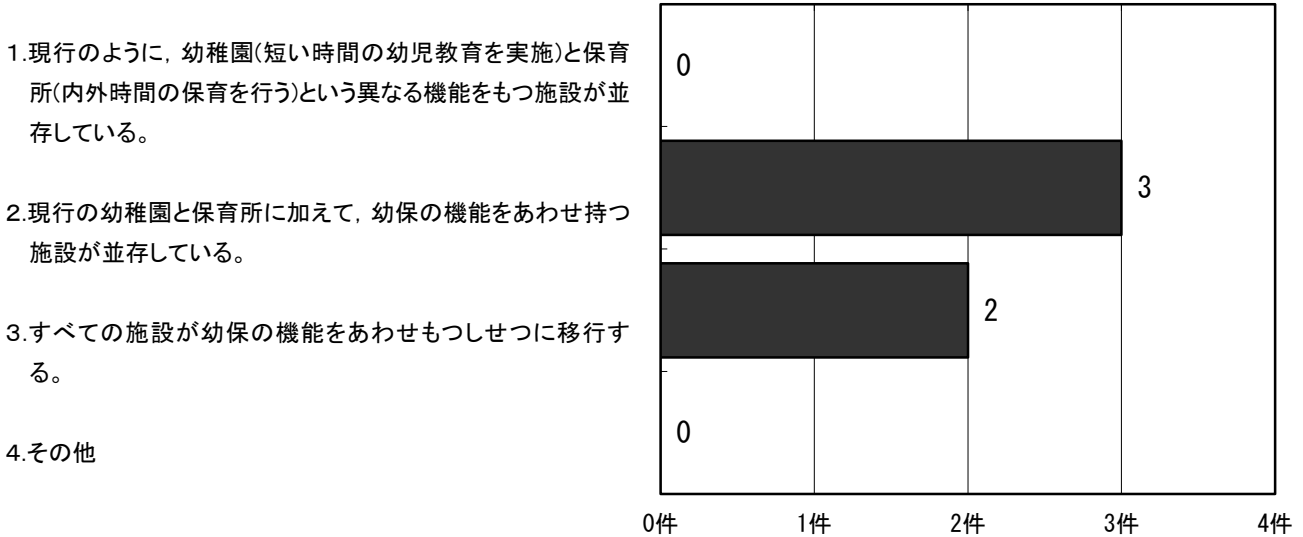
3. 認定こども園へ移行する予定である。

【明星保育園】

3. 認定こども園へ移行する予定である。

▼竹原市の幼稚園と保育所のあり方についておうかがいします。

① 望ましいと思う幼保のあり方は次のうちどれですか。



② 上記の①のように考える理由はなんですか。

『2. 現行の幼稚園と保育所に加えて、幼保の機能をあわせもつ施設が並存している。』という回答に対して

| |
|--|
| 子どもの家庭の状況に合った保育(教育)形態がよいと考える。 就労しながらも幼稚園教育を希望する保護者も増えており、その意味から長時間保育での幼稚園教育内容の充実と安心して就労出来る環境が必要と考える。 就労する母親の子育てサポートと子育て文化の伝承を持って丁寧にする場が必要であると思う。 |
| 保護者の選択肢が多様な方がよい |
| 1の場合には、通所決定後の保護者の就労状況の変化等の家庭の変化や、地域の設置状況に対応しづらいので望ましくない。3は、現在の状況からの変化を考えると、保護者にとっては選択肢が少なくなったように感じると考えられる。したがって、当面は2が良いように感じる。 |

▼子ども・子育て支援新制度についておうかがいします。

① 新制度の導入への不安や期待はなんですか。

| |
|---|
| <p>来年度、新制度に移行する予定ですが、入園募集時期が近付く中で行政との中身についての詳細なすり合わせができていないので、保護者に対して説明ができない。また保護者説明用にパンフレット等作成してほしい。</p> |
| <p>新制度の良い部分と課題になる部分もう少し具体的に見えるように示してもらいたい。特に就労に視点が置かれており、子どもの成長発達についての視点に説得力が乏しいので、長期的な子育て支援を考えると不安がある。もう少しイメージが浮かびにくいと感じている。</p> |
| <p>まだ具体的にイメージできないので、分からない。</p> |
| <p>新制度の概要しかつかめていないので、幼保連携型認定こども園に移行して、運営できるだろうか、提示された公定価格で十分か、事務量がどれだけ増えるかなど不安は多い。</p> |
| <p>期待 消費税 10%が実現し、1兆円予算が現実の物となり、職員の増加、処遇改善が予定通り行われることを期待する。</p> <p>不安 拠点型育児支援事業、延長保育、一時保育等の予算が今まで通り付くのかどうか、ようするに、今一生懸命やっている事業の「梯子を外す」行為が行われなかと危惧する。</p> |

② 新制度の導入にあたって検討している事業展開等がありますか。

| |
|--|
| <p>子育て支援をさらに充実したい</p> |
| <p>新制度は子どもと保護者との距離をより大きく感じさせるものがあるので、距離があっても、子どもと保護者の関係をより濃いものに出来る工夫が必要と考えている。「賢い親育て!」をもっと真剣に考えた「子育て支援」を進めたい。本園は「子育て」の講座を33年間継続(一般に公開)しているが、今後も続けたいと考えている。</p> |
| <p>現段階では考えていない。</p> |
| <p>特になし</p> |

▼事業利用者についておうかがいします。

① 施設・サービス利用者が抱える問題や困っていることはありますか。

| |
|--|
| 幼保連携型についての、認識がほとんど理解されていない |
| 保護者からの就園希望に対して一律に「応諾義務」があるということは、教育現場の実態が理解できていないと思われる。保育(教育)現場の指導「能力」を超えた期待は、子どもにとって決して良い事ではない。 |
| 子どもを「預かる」だけではなく「教育」をするための研究や学びの機会と予算、そして人員の保障の裏付けが欲しいと感じている。親に施設を選ぶ権利があるように施設も親を選ぶ権利が必要(勝手ではなく、能力の面で)。 |

② 親同士または子ども同士のつながりや関係性、また変わってきていると感じることはありますか。

| |
|---|
| 一年目でもあり、まだはっきりと変化は感じられない |
| 社会全体の課題ではあるが、自己中心的な人が多く、権利意識は多いが義務履行の精神は乏しい。それがそのまま、子育てに現れていて、めんどくさいことは他人に任せる傾向が強い。 |
| 親にしかできない教育(親でなければできない教育)を明確にし、それに対応できる時間の保障も必要。 |
| 指導者は権威と責任を持って、子どもだけでなく親の指導もしていく責任があると考えている。 |
| 子ども同士の関わり方が幼いように感じられる。4, 5歳児になっても自分の思いが相手に伝えられなかったり、思い通りにならないと、たたくなどの行為を行う姿がふえてきたように思う。親同士は、送迎が同じ時間帯の人、子どもが同年齢という人とのかかわりが多いようだ。子どものことなどの情報交換をして子育てを楽しんでいる様子が見られる。ただ、保護者同士の輪の中に入れられない人も見られる。 |

▼竹原市の子育て支援や子育て環境について、日頃感じている特徴や課題など、ご自由にご記入ください。

| |
|---|
| 子ども子育て会議を立ち上げ、積極的に子育て等の環境について会議を開いて頂いているので感謝しています。 |
| 現在、移行しようとしている制度は、大都会(人口急増地域、就労者人口減)を対象としており、竹原市の人口動態や出生状況から考えると、現行の制度で十分ではないかと考えている。 |
| 現行の制度の中で、家庭の状況(保護者の就労や意識)に合わせた施設の選択が出来、保護者と施設がしっかりと話し合いの上で、就園(所)施設を決めて行く事が可能な状況を大切に貫きたいと考えている(保護者の選択の自由)。 |
| 子育て文化が伝承されない現在、行政も教育施設も保育施設も「親育て(教育)」の支援をさらに充実させる必要があると考える。特に就労を必要とする母親へのサポートをもっと熱くしなければならぬ。勉強会へ、支援センターへの来ることが出来ない母親へ「子育てについて知る(学ぶ)」機会を提供してもらいたい。 |
| 竹原市行政の子育て支援や、子育て環境は年々向上しているように思う。ただ、産婦人科医院がないこと、小児科医院が少ないことが、竹原市の定住者の減少につながっているように思われる。 |